

昭和 16 年(1941) 4 月 <sup>まさる</sup>勝は留萌中学校に進みます。中学校では<sup>えいが</sup>映画を見ることは<sup>ゆる</sup>許されていないのです。見つかったら<sup>ていがく</sup>停学(※13)、<sup>たいがく</sup>退学(※14)という時代です。それでも<sup>えいが</sup>映画が<sup>す</sup>好きで<sup>す</sup>たまりません。<sup>げきじょう</sup>劇場の<sup>かべ</sup>通用口の壁に<sup>かみ</sup>耳を当てて<sup>えいが</sup>映画の<sup>き</sup>音楽を聴いたものです。

また、休日には朝 1 番の列車に<sup>あさひかわ さつぼろ</sup>乗り旭川や札幌まで出かけ、<sup>えいが</sup>映画を見ていました。そして<sup>さいしゅう</sup>最終列車で留萌に帰ってきました。

※12 <sup>きゅうせい</sup>旧制

<sup>せいど</sup>古い制度。

※13 <sup>ていがく</sup>停学

<sup>そく いはん</sup>学校が校則に違反した<sup>せいと</sup>学生・生徒に対し、一定期間<sup>ていし</sup>登校を停止すること。

※14 <sup>たいがく</sup>退学

<sup>せいと</sup>学生・生徒が<sup>ざいがく</sup>在学中に、<sup>とくべつ</sup>特別の理由で、<sup>じはつてき</sup>自発的に<sup>がわ</sup>学校をやめること。

また、<sup>きょうせい</sup>学校側から<sup>きょうせい</sup>強制的にやめさせられること。

<sup>まさる</sup>勝は学校の音楽部などには入らず、家に帰って一人でアコーディオンを弾いたり、レコードを聴いたりして過ごしていました。



アコーディオンを弾く<sup>ひ</sup>佐藤勝<sup>まさる</sup>

しかし、この年の12月に太平洋戦争たいへいようせんそうがはじまり、学校では

授業じゆぎようはほとんどせずにがくと どういん学徒動員(※15)だ、きんろう ほうし勤勞奉仕(※16)だと

戦争せんそうへの協力をさせられました。

ただ、留萌女学校の音楽教師きょうし 松田喜一先生まつだ きいちが週1回中学

校じゆぎように授業じゆぎように来るようになり、うれ嬉しくてひっし必死に勉強しました。

そして、こじんてき個人的にしどう指導を受けるようになりいっそう一層音楽にのめりこみました。

また、作曲ちようせんへも挑戦して、「国民こくみんの音楽」という雑誌ざっしの募集ぼしゆう

に応募おうぼすることもありましたが、一度も入選にゆうせんすることはありませんでした。

#### ※15 学徒動員がくと どういん

日中戦争にっちゆうせん以後、ろうどうりよくぶそく労働力不足をおぎな補うために学生・生徒せいとを工場などできようせいでき強制的にろうどう労働させたこと。

#### ※16 勤勞奉仕きんろうほうし

こうきょうてき公共的な目的のために、むほうしゆう無報酬できんろう勤勞にじゆうじ従事すること。

中学校2年生の時に将来<sup>しょうらい</sup>の方向を決めなければならなくなりました。戦争中<sup>せんそうちゆう</sup>だったことから、同級生はほとんどが軍隊<sup>ぐんたい</sup>への志望<sup>しぼう</sup>(※17)でしたが、自分はやはり音楽学校に行きたいと思っていました。

しかし、戦時中<sup>せんじちゆう</sup>に何が音楽学校だ「非国民<sup>ひこくみん</sup>」(※18)ではないかと言われるのが当たり前の時代でした。それで、軍楽隊<sup>ぐんがくたい</sup>でも入ろうと考えたのですが、年齢制限<sup>ねんれいせいげん</sup>があつて入隊<sup>にゆうたい</sup>できません。そこで、旭川<sup>あさひかわ</sup>の連隊<sup>れんたい</sup>の司令官宛<sup>しらいかんあて</sup>に血書<sup>ちけい</sup>(※19)の嘆願書<sup>たんがんしょ</sup>(※20)を提出<sup>ていしゆつ</sup>したりしました。

※17 志望<sup>しぼう</sup>

自分はこうなりたい、こうしたいと望む<sup>のぞ</sup>こと。

※18 非国民<sup>ひこくみん</sup>

だいにじたいせんまえ せんちゆう ぐん せいさく ひはんでき ひきょうりよくてき  
第二次大戦前、戦中において、軍や国の政策に批判的・非協力的なものをおとしめていったことば。

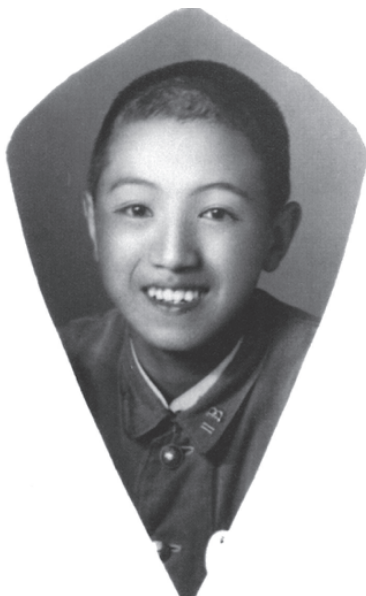
※19 血書<sup>ちけい</sup>

強い決意<sup>せいい</sup>や誠意<sup>しめ</sup>を示すために自分の血で文字を書くこと。

※20 嘆願書<sup>たんがんしょ</sup>

強いお願い<sup>ねが</sup>をする内容<sup>ないよう</sup>が書き記した文書のこと。

昭和 20 年(1945) 3月に中学校を卒業しました。この年は  
非常時<sup>ひじょうじ</sup>と言うことで5年生と一緒<sup>いっしょ</sup>に1年繰り上げて卒業と  
いうことになりました。戦争<sup>せんそう</sup>ももう末期<sup>まつき</sup>(※21)で勉強どころで  
はなかったからです。



わか 若き日の佐藤勝<sup>さとうまさる</sup>

※21 末期<sup>まつき</sup>

かぎ  
ある限られた期間の終わりの時期。